

# ネットで変わる経済

インターネットマガジン<sup>1</sup>(インプレス刊)で「常時接続はもう夢じゃない OCNはワンダフルワールド」という特集が組まれた97年、OCNエコノミーを利用する128kbpsの常時接続サービスは月38000円であった。それまでの高速常時接続サービスは少なくとも数十万円ほどしたので当時としては画期的な価格であったわけだが、一般ユーザーが利用するにはまだまだ高すぎるものがあった。しかし、それから5年が経ち、明らかにネットを取り巻く環境は変わっている。ダイヤルアップでの完全定額料金制はかなり浸透し、更なる安価な高速回線を望む一般人の声は高まりつつあるように思う。2001年度にaDSL加入者が急増したことからこれは明らかである。これからFTTH<sup>2</sup>などにより高速化が図られ、さらに利用者が増加することで、インターネットは次の段階へ入っていくことになるだろう。

昨今の情報化がIT革命と呼ばれているように、このようなデジタル通信網が広まることで現在の経済形態が大きく変革することは間違いない。この変化のポイントは、「**経済取引コストの大幅削減**」、「**プラットフォームの多様化**」、「**フィードバックの一般化**」である。

## 「経済取引コストの大幅削減」

要するに“中抜き”のことである。既存の経営モデルでも“中抜き”により成功した例は数多い。しかし、高速デジタル通信網はさらにドラスティックな変革を可能にするだろう。例えば、回線の高速化により品質の高い動画が送れることになるので、家庭で映画を見られることになるとする。そうすると、この時点で映画館を利用するための費用・その交通費は削減されることになる。また、さらなるSOHO化<sup>3</sup>が実現される。すなわち家庭にいながら多くの通常業務を行えるようになり、会社へ出勤する頻度は間違いなく下がることになるだろう。会社員はあの苦痛の満員電車の呪縛から解放されるだけでなく、通勤という非常に無駄なコストを節減することができるのだ。

## 「プラットフォームの多様化」

プラットフォームの多様化は、携帯電話の通信機能に象徴される。これまでネット利用媒体の中心だったのはパソコンであった。だがこれからは、パソコン以外の機器が次々とネットに繋がっていき、多種多様なプラットフォームが出現することになるだろう。IPv6<sup>4</sup>の一般化とともにこの動きは加速されると思われる。様々な場面でネット利用が行われるようになるが、それに伴いそれぞれの場面におけるデファクト・スタンダード<sup>5</sup>をめぐって企業間の争いが起こってくる。例えば、居間を巡る争いは既に始まっている。プレイステーション2とXボックスの争いだ。計画段階から通信網の利用を考慮に入れたこの二つの娯楽機器は、ともにトロイの木馬<sup>6</sup>としての役割を帯びているのである。

## 「フィードバックの一般化」

フィードバック自体は現在でも当然行われている。家電製品を買うとハガキが付いてきて、使用感などを記入し、メーカーに送り反すといったことはごく普通のことだ。しかし、ネット利用がさらに普及した社会では、メーカーとユーザー間の結びつきがさらに強くなることが考えられる。ネ

ットを介してのフィードバックが一般化するからである。ユーザーとしては更に厚いサポートを受けることができ、メーカーとしても製品の使用に関する多くの情報を得ることができるようになる。現在このフィードバックを上手く販売方法に組み込んで成功しているのが、デルコンピュータだ。一般に、デルコンピュータの成功は受注生産方式<sup>vii</sup>にあると思われがちである。が、その成功に大きく寄与したのは、実はネットを中心としたユーザーとの対話に他ならない。フィードバックによってユーザーのニーズを知りそれを製品に反映させることで、冷え込むパソコン業界で一人勝ちを続けている<sup>viii</sup>。

インターネットは無限の可能性を秘めているといわれる。それはあらゆる場面に応用が可能であるからだ。IT革命の核としてインターネットが据えられているのも、まさにこの点にある。ツールとしてのインターネットをどのように活用していくのか。これからの社会経済に課せられた大いなる課題である。

zyunkei@OUCC

<sup>i</sup> インターネット黎明期から業界を先導してきた雑誌。最近ビジネス向けに特化し、コンシューマーから遠ざかった感がある。

<sup>ii</sup> いわゆる「光ファイバー」のこと。NTTは主力サービスをISDNからFTTHへ直接移行させるつもりであった。しかし高速化の要求に耐え切れないISDNにかわってaDSLが一気に普及したのは周知のとおり。

<sup>iii</sup> Small Office / Home Officeの略語。小人数のオフィスや、家庭で仕事をする個人事業者を指す言葉。大企業と対照的に使用されることが多い。

<sup>iv</sup> IP (Internet Protocol)はネットワークに接続されている機器に割り当てられ、その個別認証に用いられる。現在の主流であるIPv4は32bitしかないため機器の増加に対応しきれず、128bitのアドレス空間を持つIPv6への移行が進められている。

<sup>v</sup> De-facto Standard 事実上の標準。OSのWindowsやビデオのVHSなど。

<sup>vi</sup> 巨大な木馬に兵を忍ばせ敵陣に侵入したトロイア戦争の故事にちなむ。

<sup>vii</sup> 顧客の注文に応じて生産、販売する方式。在庫コストを抑えることができる。

<sup>viii</sup> 2001年 世界パソコン市場 ベンダー出荷台数(暫定値)(単位:1,000台)

ベンダー	2001年出荷台数	2001年シェア	2000年出荷台数	2000年シェア	2001年成長率
デル	16,996	13.3%	14,365	10.7%	18.3%
コンパック	14,253	11.1%	17,209	12.8%	-17.2%
HP	9,184	7.2%	10,241	7.6%	-10.3%
IBM	8,254	6.4%	9,312	6.9%	-11.4%
NEC	4,920	3.8%	5,817	4.3%	-15.4%
その他	74,452	58.1%	77,335	57.6%	-3.7%
世界市場全体	128,060	100.0%	134,279	100.0%	-4.6%

注:上記データはデスクベースPC、モバイルPC、PCサーバ出荷を含む。

出典:ガートナー データクエスト(2002年1月)